

令和8年度 第1回学校運営協議会 意見一覧

1. こんな子どもたちになってほしい（目指す子ども像）

【思いやり・豊かな心】

- 笑顔の素敵な子
- 前向きな考え方ができる子
- どんな時も やさしい子
- 人の気持ちの わかる子
- 他の人の 痛みの わかる子
- 困っている人を 助けられる子
- 人を応援する 気持ちを けなさない 子ども（人をけなさず、応援し合える関係性）
- 親、教師、地域の人達を尊敬できる心を持った児童に
- 命を大切にする子

【コミュニケーション力・自己肯定感】

- コミュニケーション力 / 会話のキャッチボール
- 人の話を聞ける子
- 対話の大切さ
- 承認力 UP = 相手を認め、自分も認める
 - 自分の在り方をみがく（ワークショップ）
 - 「あなたはどんな人が好き」という、具体的な問いかけ

【探究心・感性】

- 何事にも探究心を持てる児童に
- 手作を楽しめる子

【危機管理・自律】

- 廻りに気をつける子
- 相手へ 人の心を読みとれる子であってほしい
- 危険を知ること
 - 「安全の中で生きすぎない」という、単に過保護に守られるだけでなく、子ども自身が危険を察知して生きる力を身につけてほしいという意図。

2. こんな学校に（目指す学校像・環境）

【楽しく過ごせる居場所と発信】

- 子ども達が楽しくすごせる学校、地域であってほしい
- 笑顔の絶えない学校

【受け入れる環境】

- 人（子ども）を受け入れる気持ちを持つ環境
 - 子どもたちへのアプローチだけでなく、学校や地域といった「迎える大人・環境の側」が、まず子どもを受け入れ、承認する姿勢を持つことの大切さ

3. こんな教育を（目指す教育内容・アプローチ）

【地域特性・少人数を活かした教育】

- 都会（多数）ではできない田舎（少数）ならではの教育 ⇒ 個性の理解（尊重）
 - 大規模校にはない、少人数（田舎）だからこそ一人ひとりの個性を深く理解し、尊重できる教育
- 自然から学ぶ（田・畑・山の動き、アリの社会性 昆虫など）
 - 地域の豊かな自然環境（田んぼ、畑、山）を教材にし、アリなどの昆虫の社会性といった具体的な観察を通して命や社会を学ぶ教育

【現代社会・技術との付き合い方】

- AIのよさと人にしかできないことの識別と役割分担（依存ではなく活用）
 - AI時代を見据え、AIに頼り切る（依存）のではなく、その良さを理解して「活用」すること、そして「人間にしかできないこと」を識別して役割を分担できる力を養う教育

4. 地域・行政との連携（安全な環境づくり）

- 地域の安全（交通状況）
 - 子どもたちの通学路や交通状況などの安全確保について、学校や地域だけでなく「行政も含めて考えて行ってもらいたい」と、踏み込んだ連携体制